

『教育基本法改悪をとめよう！松戸集会』に 270名の市民が参加！

1月14日、松戸市民劇場ホールにて、『教育基本法改悪をとめよう！松戸集会』が開催されました。（ゆきとどいた豊かな教育を求める松戸市民集会主催）

開催を決定してからの準備期間は2ヶ月と非常に短い時間でしたが、現行の教育基本法や憲法が大きく変えられてしまうという危機感を持つ多くの皆さんが集まりました。集会の賛同者も、呼びかけが十分とはいええない中、217名の個人と29団体にも上りました。

はじめに、賛同団体の中から『松戸市教職員組合』『松戸の教育を考える市民フォーラム』『松戸市に夜間中学校をつくる市民の会』の方たちの賛同アピールがあり、そのあと、高橋哲哉さんのお話をうかがいました。

高橋哲哉さんのお話

今年はとても重大な年である。保守勢力は戦後常に教育基本法に『愛国心』を盛り込みたいと考えてきたが、今教育基本法を変えようというこれまでにない強い動きがある。今年が教科書採択の年であるが、この教科書を巡る動きは教育基本法改悪とつながっている。埼玉県では、先日「新しい歴史教科書をつくる会」の元副会長・高橋史朗氏を埼玉県の教育委員に起用した。この「新しい歴史教科書をつくる会」と役員がだぶる「新しい教育基本法を求める会」が2000年に首相に提出した「新しい教育基本法を求める要望書」で、教育基本法に盛り込んでほしいとする6項目が、国の教育改革の中ですでに現場に入ってきている。

その6項目とは、

伝統の尊重と愛国心の育成・・・ここで言う伝統とは、皇室を中心とした『国柄』であり、国語と歴史が大事といている。

家庭教育の重視・・・これは と結びついているが、『家』が社会生活の単位であり、日本の伝統文化の中心になるといている。そのまた中心が『皇室』。

宗教的情操の涵養と道德教育の強化・・・2002年「心のノート」を作り、小中学校で「心の教育」を。素直で従順な、親の言うことを聞く子どもたちを育てていこうとしている。大いなるものへの畏敬の念（実質的には天皇教）を子どもたちに学ばせる。これは、かつて国家神道を教えてきた戦前の教科書にも含まれていて、新しい概念ではない。

国家と地域社会への奉仕・・・ボランティアの義務化として現場に入ってきている。

文明の危機に対処するための国際協力・・・軍勢力国際派遣

教育における行政責任の明確化...現行の教育基本法の制定により、民主化という名の過剰な下部への権限委譲が行われたとし、上部が責任を持つように変えるべきと主張。もう一度教育を国家のものにしようとしている。

この6項目が、現在の教育改革や、学習指導要領などでどんどん現場に入ってきており、また教育基本法もこの方向での「改正」が検討されている。

現行の教育基本法を考える時のポイントとして、高橋さんは3つあげられました。

教育基本法前文にあるように、憲法の理想の実現のために教育基本法が定められているということ。

第1条の「平和的な国家および社会の形成者として」という表現はきわめて大事である。平和な社会でなければ個人の尊厳はないということだ。

第10条は権力の乱用を防ぐために定められた憲法的な条文であり、主権在民の理念に貫かれている。

そして、政府与党の検討会が公表した中間報告を見ると、

現行基本法の前文中の「憲法の精神に則り」の扱いについては検討を要するものとしている。

個人の尊厳という価値が消え、国家・公共の精神の重視という価値が入ってくる。

「教育行政は、不当な支配に服することなく、国・地方公共団体の相互の役割分担と連携協力のもとに行われること。」と変えようとしており、私たちのような運動なども不当な支配と扱われてしまう。これが通ってしまえば、国や県などの教育行政は、ありとあらゆることをしてくるだろう。何でもありになってしまう。ここは最大のポイントだと思う。

このように、教育基本法「改正」の問題点をわかりやすくお話していただきました。そして最後のまとめとして、「法律があるから、自由・平和・平等が守られるのではない。どれだけ多くの人たちが平和・平等を大事に思うかが問われている。私たち皆が平和・平等を大事に思えば、法律はあとからついてくる。」と語られました。

私たちが、自分の暮らしの中で、平和と平等を具体化していくことが本当に大切なことだし、それができなければ、いくら教育基本法や憲法で平和・平等が謳われていても、本当に形だけのことになってしまいます。私たち一人一人が問われているのですね。とても重みのあることですが、それが権利というものでしょう。

松戸の教育を考える市民フォーラムの神さんも賛同アピールの中でおっしゃっていました。「私の今年のテーマは**一平和と平等をあきらめない**です」と。それぞれの場で、それぞれの言葉で、憲法・教育基本法について語り合い、多くの人と平和と平等を大切に思う気持ちを共有していきましょう。